



12月2日「浅草懐石 瓢庵」にて、芸者さんを囲んで。チャコちゃん先生の右側が、瓢庵の女将、大滝洋子さん。

ひさ奴見参！
中谷比佐子

それは高度成長期の頃、日本橋の問屋の社長には、粋な遊び人がいたものです。しかもオーナー社長。着物のことを書く記者として、それらの問屋に取材をし、そこから職人たちのところへ社長ともに出かけるといのが、私の仕事の仕方でした。

当時は着物の取材をする記者は少なく、また撮影のときの着物スタイリストも私しかいないという時代でした。そのためどこに行っても欲待たもありましたが、それまでは男の業界記者しかいなかったため、珍しいというところもあつたようです。

懇切丁寧に説明を受け記事にしていくうち、着物の奥深さに感動し、更に自分でいろんな産地の着物に手を通すようになると、一端の着物評論を生意気にもするようになったのです。

もちろんその頃はアパートや婦人誌に、また着物専門学校に諸先輩が君臨していましたが、二十代で着物のことに興味を持ち、日本の文化として記事にする私におじさんたちは興味を覚えたようで、何か応援をして

裏面へ続く



お座敷遊「とらとら」を楽しむ志村先生とチャコちゃん先生。

比佐子つれづれ X'MAS PARTY 2017

12月2日、快晴の中、「浅草懐石 瓢庵（ひさごあん）」さんと、早めのクリスマスパーティーを楽しみました。今回は、見番前ということもあり、女将 大滝洋子さんのトークと、芸者 聖子さんと、地方 まことさんによるステージ。引き着で舞う美しさを堪能しました。



料理長さん(現代の名工)の料理に舌鼓をうちながら。



たかは、正確には思い出せません。京都や博多、また他の地域でもお座敷遊びをさせていただきましたが、たとえ小唄がなくても、微妙な日本人の情の細やかさがわかる感性を持つと、お座敷遊びがより楽しくなりますね。

お座敷遊びは日本人の感性を身につける場所でもあるように思っています。

KOSMOS

秋櫻舎講座スケジュール

schedule

2018年
1-2月

イベント・講演

自分の資質を知る「カラススイッチ」のご案内

「あなたがあなたらしくある」ための、本来の資質。それは持って生まれたもの。常に振動しているあなたの細胞の資質を見極めて、それに合った行動、呼吸を知っていくと、ますます自然な輝きが生まれます。日本初のカラーリスト松尾恵利子先生のゼオリーを、チャコちゃん先生が着物を着る人のためにアレンジした「カラススイッチ」。あなたに似合う色、柄、立居振舞がわかります。2018年の新生活からとりいれてみませんか。

- 日時 ご希望の日時をお知らせ下さい(2日間予定)
- 会場 秋櫻舎
- 会費 ¥35,000
- 定員 3~5名ずつ(グループ参加歓迎)

東京手描友禅コンクール展示会 第56回「染芸展」

東京手描友禅のベテランから新人作家までの百数十点が一堂に会するコンクール。初日午前中の審査会では、チャコちゃん先生も今年の一枚「こすめす賞」を選出します。作家さんと交流できる機会でもある展示会は、どなたでも入場可能。見応えある展示、見いらしてください。

- 会期 3月2日(金)~4日(日)
*2日はチャコちゃん先生滞在日
- 会場 東京都立産業貿易センター 台東館 6F
- 入場無料
- 主催 東京都工芸染色協同組合
- 共催 東京都
- *手描友禅体験教室も開催(参加費 3,500円 14時迄)

つれづれの会

●テーマ 「日本人なら知っておきたい 天皇制の諸々」

- 開催予定日 (全て第4土曜日 13:30~) 1/27、2/24、3/24 (4月は岡谷へ) 1/27 は今年を占う「2018年をどう過ごす?」
- 参加費 5,000円(税込)
- ゲスト 周藤緑さん 占星術研究者、鑑定士。「株式会社赤坂ロゼッタ」主宰。http://ak-rosetta.com タロット占いでお一人ずつみていただきます。

ナイトコスモス ナイトコスモスは、しばらくの間お休みとさせていただきますので、ご了承ください。

たいと思ったのでしよう。ある日「比佐子さん、本気で生着物のことを研究するかね」

「もちろんですわ。おもしろいでもの」「(生着物のなんて全く思ってもいなかった。続ける約束したほうがいい事があるような直感)」

「ホントだね。生着物のことを研究していくね」

「あ、は、ハイ」

「では、今日から着物を着る作法を学ばせてあげよう」

「??、ハイ」

連れて行かれたのが神田のお茶屋。



「さあ、お座敷遊びをしよう」「(フワフワ)」

「こんばんは」

賑やかな声と衣擦れの音であらわれた芸者衆と地方。いきなり華やかに踊りが始まり、その間別の芸者さんがお酌をして回る。あれよあれよという間にその雰囲気に乗せられて、手拍子、口三味線。

「野球拳教えてあげましょ」

と年配の芸者、小唄を節、土俵入り、口説き方、口説かれ方、お化粧の仕方、目配り、気配り、耳の聞き分けなどなど。月一度のお座敷講習で

「さあ、お座敷遊びをしよう」

「ひさ奴にしよう」

「あら、この座敷に連れて行かれ、賑やかな声と衣擦れの音であらわれた芸者衆と地方。いきなり華やかに踊りが始まり、その間別の芸者さんがお酌をして回る。あれよあれよという間にその雰囲気に乗せられて、手拍子、口三味線。」

「野球拳教えてあげましょ」

と年配の芸者、小唄を節、土俵入り、口説き方、口説かれ方、お化粧の仕方、目配り、気配り、耳の聞き分けなどなど。月一度のお座敷講習で

は、芸者さんたちの先輩朋輩、後輩たちとの交流の仕方なども学ぶ。そしてある日。

「比佐子さん、いつもいい着物着ているわね。素敵。今日のは特に、私大好き」

「そう。じゃあ、とっかえっしょうか」

「おいおい」

と止める手を払い除け、二人は別室へ。男衆(おとし)さんと呼ばれ、着付け、姉さん芸者がお化粧を伝授。そしてかつらをつけ、表向きは芸者風。

「さあ引き着の歩き方とお辞儀ね」と特訓をされた私。面白いので覚えたい。ありがとございました。

「ひさ奴にしよう」

「あら、この座敷に連れて行かれ、賑やかな声と衣擦れの音であらわれた芸者衆と地方。いきなり華やかに踊りが始まり、その間別の芸者さんがお酌をして回る。あれよあれよという間にその雰囲気に乗せられて、手拍子、口三味線。」

「野球拳教えてあげましょ」

と年配の芸者、小唄を節、土俵入り、口説き方、口説かれ方、お化粧の仕方、目配り、気配り、耳の聞き分けなどなど。月一度のお座敷講習で

と小声で確認。でもみんな聞いている。

「この引き着を着せていただいて、勉強になりましたよ。半襟の付け方、帯の腰の締め具合、膝の使い方、肩の抜き方、シゴキと湯文字の重要性、帯位置の人それぞれの決め方など、もう本当にすごいこと教わりました。社長有難うございました」

それにしても、抜いた襟の中にお札がさつさつとくっつく！

「背中にお金背負っているんですけれど、どうしよう。姉さんたちに分けたほうがいいですね」

「Chako、あなたのもよ。記念に中の時、呼んでくれたイヤーに乗り引き着のまま帰宅。」

その後何度も「着物から離れよう」と思う壁にぶつかるとがあり、その都度、

「生着物を研究する、仕事としてやる」という約束を思い出し、挫折を切り抜けてきました。

そのときに交換した引き着は赤と白の薩摩筋(縞)、帯は白黒博多献上の丸帯、シゴキは六尺緋縮緬でした。きものは私の掛け布団になっています。その時の私の着物がなんであつたのかね」